

〈東文研・ASNET共催セミナー〉

インドネシア・スンバ島の暦を読み解く ゴカイの群泳と二つの大祭に関する調査から

雨季と乾季のあるスンバ島西部では、農耕に暦が欠かせない。そして、この暦に従って毎年いくつもの大祭が営まれてきた。暦の置閏法を明らかにすべく、報告者は、ゴカイ類の生殖群泳と、それにまつわる騎馬戦の大祭、乾季終わりの大祭についての再調査を行った。その結果明らかになったのが、隣接する山間地と海岸低地、あるいは、異なる言語集団間で「シグナルの伝達」が行われており、これによって柔軟なかたちで、太陽周期と暦が同期されることであった。



◆ 日 時 : 2018年6月5日(火) 12:00-13:00

◆ 報告者 : 古澤拓郎氏(京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授)

◆ 会 場 : 東京大学 東洋文化研究所 1F ロビー

※ 報告は日本語で行われます。



東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネット
ワーク
Network for Education and Research on Asia

